



勤務先 (株) 広成
にしだ しょうき
西田 翔輝 さん
(19歳・和久里)

現場を任せてもらえるように

中学校を卒業してから土木の仕事に就いている西田さん。昨年の春に現在勤めている会社に入社し、主にシヨベルカーなど重機のオペレーターとして、仕事に精を出しています。

少人数の会社のため、若手の社員だけで現場に入ることもあるようで、「分からないこともあり大変ですが、まずは自分たちで考え、解決しよう」とします。経験することで学べることもたくさんあります」と自分たちが成長できるチャンスと捉えます。

「機械の操作や重機の操縦など、で

きなかつたことが少しずつでも上達していくことにやりがいを感じます」と話す一方で、「できていないことも多くあるので、これから必死になって覚えていきます」と意欲をみせます。

職場については「歳が近い同僚もいて楽しい」と言う西田さん。「互いに競い合い向上することで、仕事の質を高めていければ」と笑顔をみせます。今後の目標については、「現場を任せてもらえるようになること。そのためにも、まずはミスをなくすことですね」と元気に話してくれました。



若狭小浜ドローン協会 代表
おおきど まさし
大城戸 将司 さん
(37歳・四谷町)

きりり! 小浜人

地域の魅力発信にドローン活用

若狭小浜ドローン協会は、カメラマンなど自営業者4人で平成28年に設立。これまで子どもから80代まで幅広い年齢層を対象に、ドローンの体験会や指導を行ってきました。

協会は国土交通省のホームページに、要件を満たす講習団体として県内で唯一掲載(全国43団体中)。8月から本格的に教室を開講しました。代表で講師の大城戸さんは、「業界初の個別指導型」と表し、「用途や個人の特性に合わせた教え方をしています」とマンツーマン型の利点を話します。

平成20年に東京から小浜へUターンした大城戸さん。海や山の自然を空撮したところ、「すばらしい景色に感動しました」と、活動の契機を振り返ります。教室開講後は、県外からの申し込みが増え、「地域の魅力発信につなげたい」と意欲を示します。市内イベントや小学校の遠泳大会でもボランティアで撮影を行うなど地域にも貢献しています。「ルールを守って使用することが大切。ドローンの活用を広めることで、小浜を聖地にしたいです」と笑顔をみせました。

燃えろ! 青春! 部活道

託されたバトン 決意新たに

8月から小浜中学校の女子バレーボール部の2年生12人、1年生11人の23人が新体制で練習に励んでいます。今夏まで部をまとめてきた前キャプテンの柚木さん(写真左)は、「良い成績を残せず、悔しい思いもたくさんしました」と話し、「問題があれば、みんなで考えることでチームの絆が深まりました」と振り返ります。上野さんは、「柚木さんの頑張っている姿を見て、自分も部員たちを引っ張っていく立場に」と決意し、新チームのキャプテンに立候補しました。

大事にしていることは、学校生活において大きく明るい声を出すこと。「普段から人前で声を出すことで、緊張した場面でも力を出せるようになります」と二人は声をそろえます。「先輩たちから教わったこと、元気の良さなどを受け継ぎ、後悔しないように、一つ一つの練習を大切にしていきたい」と上野さんは決意を新たに、柚木さんは「親など支えてくれる人、応援してくれる人に感謝の気持ちを忘れずに頑張ってください」と次の世代にバトンを託しました。



女子バレーボール部 前キャプテン・キャプテン
うき さと
柚木 沙都 さん うえの みかげ
上野 美景 さん
(小浜中学校3年生) (小浜中学校2年生)

燃えろ! 青春! 部活道

高校生らしく 楽しく書道を

若狭東高校書道部の玉置さん。小学4年生のときに「字が上手になりたい」と思い、近所の教室へ通い出したのが、書道との出会いでした。4月から部長として、2年生5人、1年生4人の部を引っ張ります。

「書道は静かに取り組むイメージがありますが、高校生らしく、楽しく活動できる雰囲気をつくりたいです」と秋には、道の駅とパレオ若狭で書道パフォーマンスを予定。「部員みんなで見え出ししながら、書く字を決めたいです」と意気込みます。



書道部 部長
たまき ゆうな
玉置 裕奈 さん
(若狭東高校2年生)

尊敬する人に、書道教室と部活の先生を挙げ、「スランプに陥って書けないときは、身近な先生にアドバイスをもらうことで、集中力を取り戻しています」と信頼を口にします。「昔と比べて、少しは字がうまくなったかも」とはにかむ玉置さん。現在、書道教室には、小学2年生の弟も通い出し、「教えたり、励ましたりしています」と笑顔をみせます。将来の目標を尋ねると、「社会人になっても書道が続けていきたいですね」と力強く答えてくれました。

だるま窯

口名田地区には、かつて若狭瓦を生産していた窯があります。たき口が両側に設けられており、だるまのような外観をしていることから「だるま窯」として親しまれています。現在では需要減少の影響で若狭瓦の生産は終了しましたが、だるま窯の歴史や特徴的な形を保存しようと、地域の皆さんでつくる「若狭だるま窯を守る会」が活動をしています。

私も平成28年度から皆さんと共にイベントの企画を行っています。今年は「男女でコネコネ♡土笛づくり」を実施中。10月22日⑩の「土笛の野焼き日」では、若狭瓦でBBQも行うなど新たな瓦の使い方をおいしく実験してみます。興味のある人は、hara.chioko@gmail.comまでメールをお願いします。



【アクセス】
上中井
JR小浜駅から車で17分程
国道162号線中井交差点を右折し(中名田向き)、中井橋の手前で左折
【文と写真】
地域おこし協力隊 ハラ

みんなで**国体障スポ**

国体きっかけに魅力広めたい

平成30年の福井国体で、若狭鯉川シーサイドパーク(鯉川)と市営野球場(東勢)の2カ所が競技会場に選ばれている加斗地区。同地区体育協会では、大会当日までの景観整備を担うクリーンアップボランティア隊に、平成28年8月から参加しています。

9月の環境美化デー清掃活動にボランティア隊として参加した、同協会役員の浜田さん(写真左)と森本さん。浜田さんは、「景観美化はとても大切だと思います。選手や訪れる人をきれいな状態で迎えたいですね」と話します。森本さんも、「自分がやれることから少しでも貢献できるとうれしいです」と意欲をみせます。2人は国体を通して、「美しい自然や食など小浜の魅力を、多くの人に広めたいです」と声を合わせます。今後の目標を尋ねると、浜田さんは、「地区の隔てなく、団結して小浜が盛り上がるきっかけになってほしいです」と期待をよせ、森本さんも、「子どもたちの未来のために、親世代の僕たちが頑張る姿を見せたいです」と笑顔で話してくれました。



OBAMAはびねすクリーンアップボランティア隊員
はまだ まさはる もりもと たつや
浜田 正治さん **森本 達也**さん
(42歳・鯉川) (34歳・鯉川)

健康長寿のススメ

おばまの健康づくり10か条「タバコ」

タバコの煙の粒子は、0.1〜1.4マイクロミリ、典型的なPM2.5であり、分煙や空気清浄機の対策では防ぐことはできません。副流煙による健康被害などを理解し、禁煙に取り組みましょう。

タバコには多くの有害物質が含まれ、中でも「ニコチン・タール・一酸化炭素」は三大有害物質と言われています。依存性が非常に高い、有毒物質のニコチン、発がん性物質のタール、そして酸素不足を招き血管を傷つける一酸化炭素。これらは確実に体をむしばみ続け、肺がんなどの各種がんをはじめ、タバコ病と言われるさまざまな病気を引き起こします。

タバコがもたらす健康被害
タバコには多くの有害物質が含まれ、中でも「ニコチン・タール・一酸化炭素」は三大有害物質と言われています。依存性が非常に高い、有毒物質のニコチン、発がん性物質のタール、そして酸素不足を招き血管を傷つける一酸化炭素。これらは確実に体をむしばみ続け、肺がんなどの各種がんをはじめ、タバコ病と言われるさまざまな病気を引き起こします。

見過ごせない受動喫煙

タバコの煙は自分が吸い込む主流煙よりも、先端から立ち上る副流煙の方が、数倍から数百倍の有害物質を含んでいます。喫煙後約30分は、吐く息にも有害物質が含まれます。髪の毛や衣服、壁、床、家具などに染み付いたものは半永久的に残り、じわじわと染み出し健康被害をもたらします。

禁煙にチャレンジ

- タバコや灰皿、ライターを処分する
- 禁煙補助薬や禁煙外来を活用する
- ミネラルウォーターを持ち歩く
- 一週間はタバコが買えるところに近づかない

- 次回のテーマ
おばまの健康づくり10か条「第6条：運動・身体活動」
- 問い合わせ 健康管理センター
☎52・2222

第5条 タバコは止めましょう。

禁煙による体の変化

- 20分で 血圧や脈拍が正常値に近づく
- 8時間で 血液中の酸素濃度が増加しはじめる
- 24時間で 心臓発作(心筋梗塞や狭心症など)発症の確率が低下
- 72時間で ニコチンが体から抜け、気管支が広がって呼吸が楽になる
- 2〜3週間で 循環機能が回復し、肺活量も30%程度回復
- 1〜9カ月で 咳や痰、疲れやすさ、息切れが改善
- 5年で 肺がん発症確率が半分になる
- 10年で さまざまながんの発症確率が低下



アート&カルチャー

五・七・五の文学で人生を詠む

番傘川柳社は、小浜出身の川柳人西田當百らにより明治42年に大阪で創立され、100年以上の歴史を持つ組織。同団体の小集会として小浜で活動しているのが、若狭番傘川柳会です。毎月第二金曜日に働く婦人の家や句会を開いており、文化祭や市内外を問わず、各種大会に参加しています。18人の会員の中、平成20年から会長を務める前川さん。「友達に誘われて始めました。今では生活に溶け込み、気が付くと四六時中、句のことを考えていることも」と笑顔をみせます。



若狭番傘川柳会 会長
前川 正子さん
(77歳・東市場)

「川柳は、日常生活や人生を詠む五・七・五の文学です。奥が深く、ロマンを感じます」と魅力を話す前川さん。毎月の句会では、会員が課せられたテーマの句を発表します。「共感できるものもたくさんあり、笑いが絶えず、楽しい会になることも多いです」「若い人にも魅力を知ってもらい、川柳で豊かな心を育て、みんなで楽しい人生を送りたいですね」と今後の目標を語り、「堅苦しくなく、気を使わなくてもいい会です。気軽に参加してもらえれば」と話してくれました。